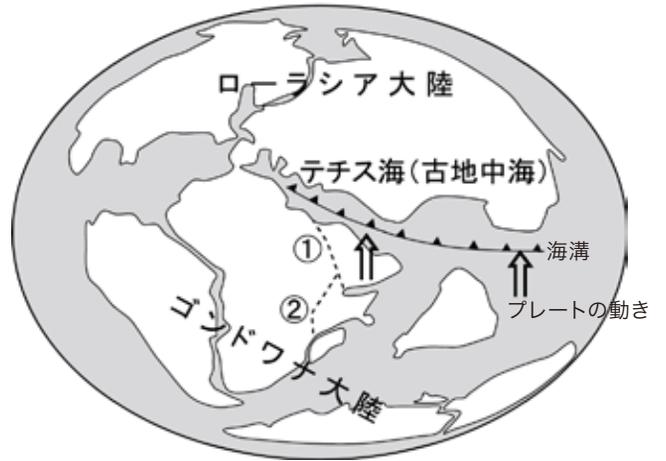


中東の石油



図1 中東地域の油田
(全国石油商業組合連合会のデータを改変)



①の破線：大地溝帯(紅海の拡大)
②の破線：大地溝帯(火山帯の拡大)

図2 1億年前の大陸と海

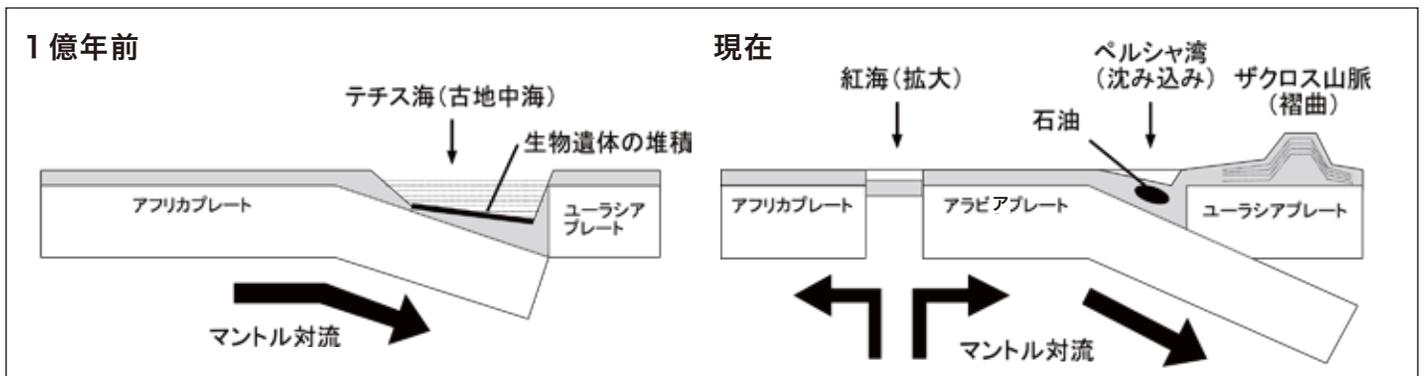


図3 中東地域のプレート運動と石油の形成

世界をテロの恐怖に落とし入れているテロ組織ISの財源の一つに、石油の密売があるとされています。中東地域に世界の超巨大油田27個のうち24個が集中しており、地球全体の55%の石油がこの地域で見つかっています(図1)。

中東の石油形成は恐竜が繁栄した1億年前から始まります。当時の大陸は北のローラシア大陸と南のゴンドワナ大陸に分かれ、その間の赤道付近にはテチス海(古地中海)がありました(図2)。南のゴンドワナ大陸は北上し、間のテチス海は時代とともに幅が狭くなり、現在では一部が閉じ込められ、黒海・カスピ海・アラル海になっています。

当時のテチス海は石油生成に大変適した環境でした。

(1)中生代はプレートの移動スピードが速く、火山活動も活発で二酸化炭素濃度は今より10倍も高く、気温も10°Cも高かったようです。地球温暖化で植物の成長も早く、多量の生物遺体がテチス海に堆積しました。

(2)テチス海は内湾であったため、海水は攪拌されず長く酸欠状態が続き、生物遺体は分解されずに海底

に厚くヘドロ状に堆積しました(図3)。

(3)南から移動してきたアフリカプレートがユーラシアプレートと衝突し、境界のテチス海の地層が褶曲し高温高圧状態になりました。その結果、生物遺体は液体やガスの炭化水素へと変化し油田が生まれました。

(4)さらにテチス海は赤道付近にあったためサンゴ礁から多孔質の石灰岩が多量に作られ、その孔に石油が蓄えられ、大規模な油田が中東に形成されました。

1億年から現在に至る石油生成に適した地質環境がなければ中東も生産性の低い砂漠地域にすぎません。地球が与えてくれたせっかくの資源ですので、人類平和のために活用してほしいものです。(合地 信生)

発行 知床博物館協力会 2015.2.26
099-4113 北海道斜里郡斜里町本町49
斜里町立知床博物館内
TEL: 0152-23-1256 FAX: 0152-23-1257
<http://shiretoko-ms.sakura.ne.jp/>